次回予告
第11回 4月4日（木）国府台城から矢切の渡しで寅さんの……
第12回 5月12日（日）川越城と蔵の町を歩く ――→ 日程変更しましたのでご注意ください

城と史蹟を歩く会第１０回　『品川宿を歩く』ご案内資料

＜日時＞	平成１４年３月１０日（日曜日）１０時００分～１６時３０分ころ
＜主要行程＞	八幡宿８時１０分乗車 ― 千葉８時５２分（⑨番線快速始発）品川９時４６分着 ― 御殿山（遠望） ― 台場跡 ― 聖蹟公園 ― 品川神社 ― 東海寺 ― 子供の森公園（昼食） ― 海蔵寺 ― しばられ地蔵 ― 妙国寺 ― 品川寺 ― 京浜急行青物横丁駅 ― 品川駅１６時２１分（総武快速）八幡宿１７時３９分着

山岸弘明

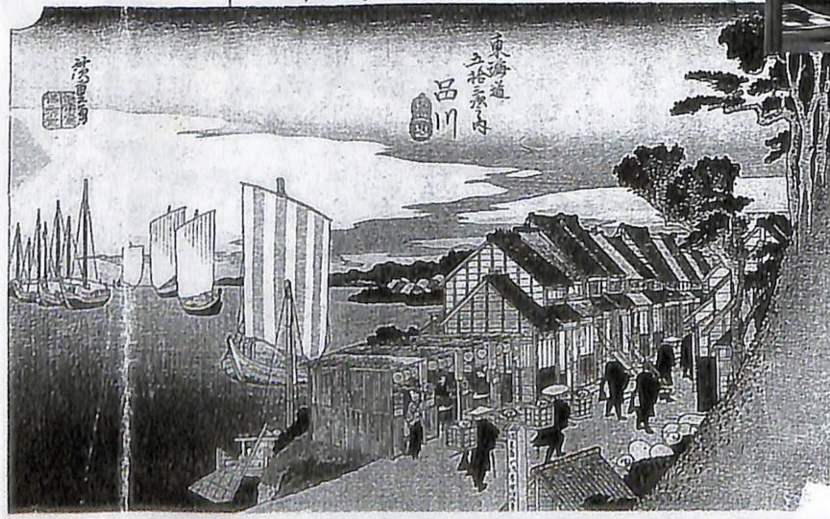
1）　はじめに　（東海道とご案内地名のいわれ）
①東海道＝古代７道の１つ。鎌倉時代京都－鎌倉の連絡道路として整備され、慶長９年（1604）徳川家康が江戸－京都間に53宿を定め、５街道でもっとも重要な幹線街道として道中奉行が管理した。
②高縄＝高台のまっすぐな道、高縄手道。縄手は広くもない１本道をいう。
③御殿山＝伝太田道熚屋敷跡。江戸はじめ徳川家の御殿があり、鷹狩の休憩所などに利用された。
④八つ山＝谷（やつ）山、谷間の山地。御殿山の麓が海に迫って８つの出崎があった。
⑤品川＝目黒川の古名、入江があって品のよい地形などの説がある。
⑥番場（南番場、北番場）＝品川宿継立の馬場が置かれた。
⑦青物横丁＝家康江戸入り当時、小田原の青物町を移した。

2）　ＪＲ品川駅
①高輪かいわい＝東海道。第１宿品川宿まじか、江戸湾に面した街道。陸側に大名屋敷が続いた。
②品川駅＝維新直後、新政府は文明開化の象徴として鉄道の敷設をすすめたが、通路にあたる薩摩藩が激しく抵抗、苦肉の策として海上を通過することにした。
品川駅も、当初品川宿に予定されたが宿場の権利が奪われると早合点した住民たちが停車場の設置に反対、港区に品川駅ができた。明治５年新橋、横浜間に東海道線が開通、10時間の行程が53分間に短縮。人々は轟音をあげてひた走る蒸気機関車を驚異の目をもって迎えた。

3）　御殿山跡遠望　（太田道熚と徳川将軍家御殿跡）
①太田道熚御殿＝室町中期、関東管領上杉氏の重臣太田道熚が江戸城の別荘（兼出城）を構築。伝承だけで実存しないともいう。
②徳川将軍家御殿＝徳川幕府樹立当初の慶長ころからそう長くない期間。家康ら初期の将軍が鷹狩や茶会などに利用した。
②御殿山＝かつて小さな山。幕末、台場構築のため削取られて消滅、しばらく地名は残ったが、現在は北品川に編入されている。

↑北品川

御殿山跡→



←品川宿 ↑問答ガン跡

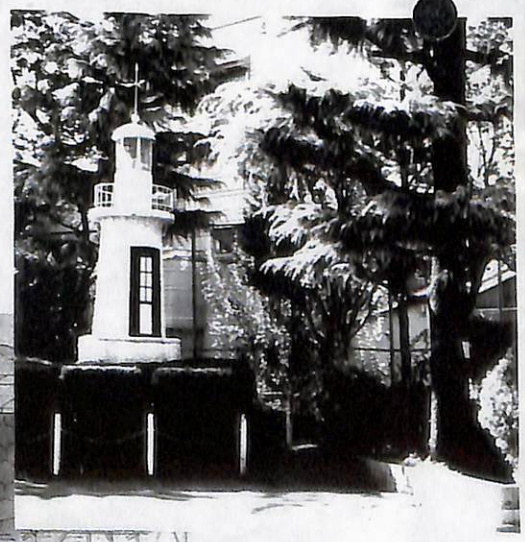
4）　旧東海道品川宿
①東海道第１宿。江戸日本橋から２里。川崎、神奈川につづく。奥州街道の千住、中山道の板橋、甲州街道の内藤新宿とならぶ江戸４宿の１つ。平成13年に開設４00年を迎えた。
②江戸側から歩行（かち）新宿、北品川、南品川、の３宿で構成、天保14年（1843）資料は家数１,561軒、人口６,890人。食売（飯盛）旅籠92、平旅籠19、水茶屋64、煮売渡世のもの44軒で宿場の繁盛振りが伺える。飯盛女（遊女）による吸引力が大きかったという。
③歩行新宿ははじめ品川新町と呼ばれ、無許可だが江戸寄りという立地条件で栄えた。品川宿の旅籠は各種御用と宿費用の負担があり不公平、と道中奉行に訴えた。以後品川宿に加えられ、徒行人足経費の負担を条件に旅籠営業を認められた。遊女は品川宿１店２名に対して歩行新宿１名と差を付けたが守られなかった。宿場の遊女は源氏名を許されずお初、お玉などとよばれた。
④京浜急行は明治37年八ツ山－川崎間を開通。大正14年品川に通じた。
⑤両側に重々しい瓦屋根の旧家がならび宿場らしい雰囲気を残している。

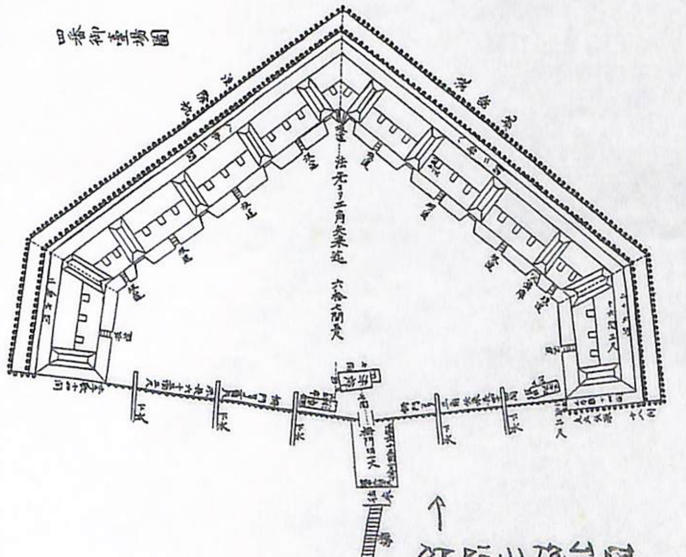
4）　家光ゆかりの問答河岸碑
①３代将軍は東海寺の沢庵和尚を訪ねて足しげく通った。寛永17年（1640）沢庵が家光を品川の海に案内したとき
②家光問う「海近うしても、遠かいじ（東海寺）とはこれいかに」、沢庵答えていう「なお大君にして小軍（将軍）というがごとし」。問答を記念した河岸の碑。

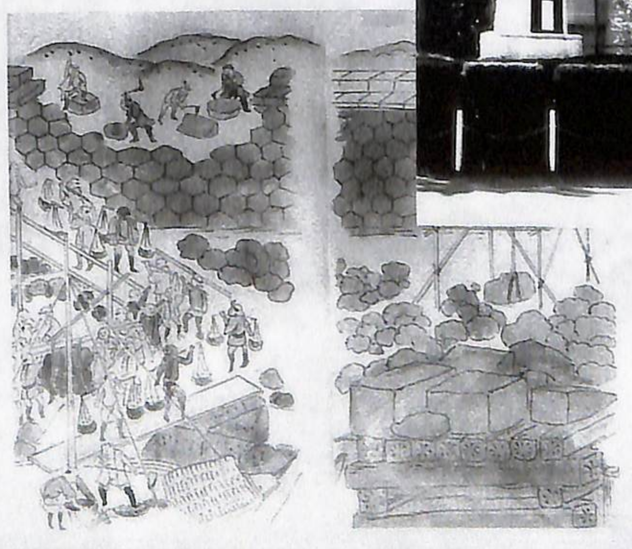
5）　土蔵相模跡
①品川宿最大の大見世。相模屋が正式だが江戸湾を望む座敷が土蔵造りで「土蔵相模」と通称された。
②万延元年（1860）水戸浪士らは井伊直弼襲撃の前夜、結集して気勢をあげ、文久２年（1862）高杉普作、久坂玄ばらが御殿山アメリカ、フランス公使館焼打ちの計画を練った。
③戦前まで土蔵造りは残ったが、現在は４階建てマンション１階はコンビニになっている。

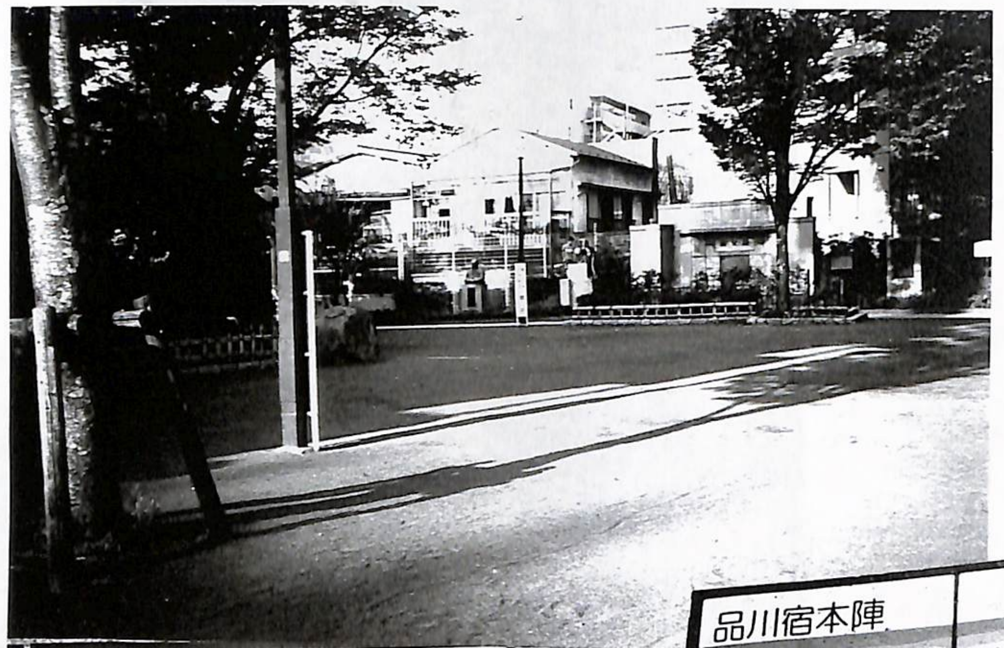
↑ 船だまり

くじら塚↑



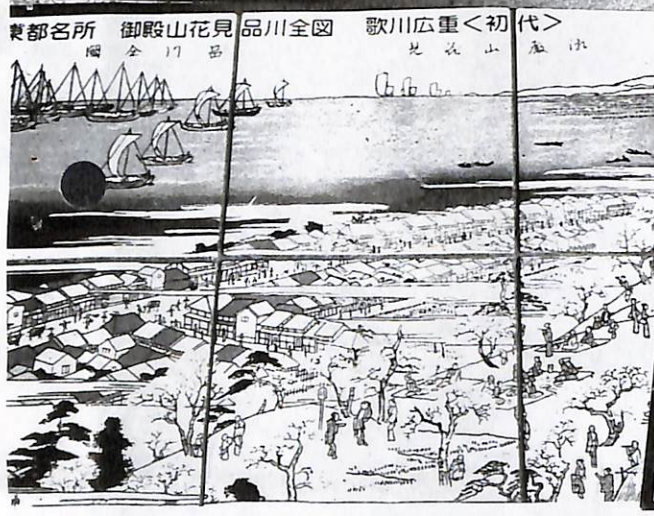

↑ 御殿山砲台に

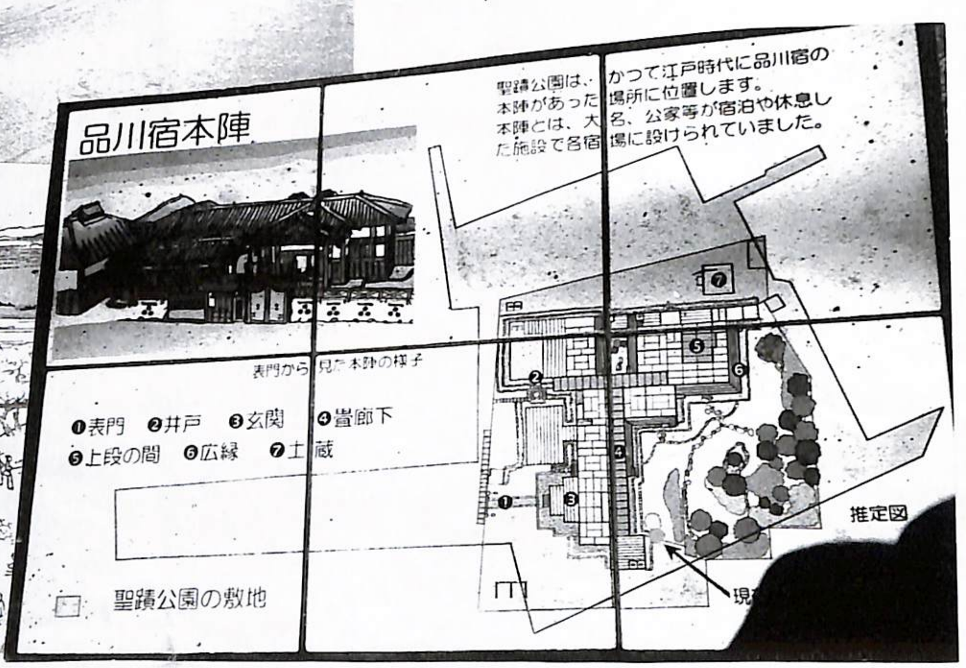

品川台場外
← 工事の図



←品川宿本陣アト

本陣アトの陶板図
↓本陣図
↙品川の図（広重）





6)　**天王洲船溜、品川洲崎、くじら塚と利田神社**

①江戸時代は第１京浜、八ツ山通りの先は海。船溜はなごり。現在も釣船、遊覧船でにぎわう。

②品川洲崎＝江戸時代の目黒川河口に細長く突きでた南品川漁師町。宿役を負担しない代わりに江戸城に魚介類を納めた。

③くじら塚＝寛政10年（1798）暴風雨のとき江戸湾に迷いこんだ長さ17mの大鯨を漁師たちが生捕り、11代将軍家斉にも上覧した。「鯨、７浦を潤す」すべてを食用、骨を埋めてくじら塚に。

④利田神社（弁天堂）＝寛永３年（1626）家光勧請と伝う。漁師の守護神弁才天を奉る。境内の水盤は明治７年「郵便蒸気乗組中」寄進。はじまったばかりの郵便船も弁天を目印に航海したのだろうか。

7)　**品川台場（御殿山下砲台）跡**　（台場小学校周辺）

①台場＝ペリー来航で緊迫する江戸湾の外敵防衛のために作られた砲台。嘉永６年から１年間の突貫工事で予定11基のうち５基が完成し２基は未完、現在も第３、７台場が現存する。

②品川台場＝品川洲崎に隣接する海中に築かれた砲台。小学校敷地から天王洲運河手前周辺の一画がホームベース型で当時の地形を止めている。護岸の石組は伊豆半島東海岸の石材が運ばれ、土は前出の御殿山で採掘された。台場には水戸藩寄贈の大砲３門ほかが据えられたが、幕府は各国と和親条約を締結、威力を発揮することはなかった。

③ミニチュアの灯台（砲台？）＝礎石に台場の石が使われている。

8)　**区立品海公園、海岸石垣**

①海岸石垣＝海岸への浜道。当時の面影を伝える。

②北品川＝かつての宿場街中心地。

9)　**区立聖蹟公園、品川本陣跡**

①本陣＝江戸時代、公務で通行する大名や役人、公卿などを泊めた高級旅館。建築構造は大名屋敷に準じ、車寄せ、唐破風玄関、式台、上段の間、台所、湯殿、庭園などを設けた。（写真図参照）

②品川本陣＝北品川に本陣１、脇本陣１、歩行新宿に脇本陣１、初期は南品川にも本陣１が置かれた。北品川本陣は鶴岡市郎右衛門であったが、幕末ころ鳥山金右衛門に代わった。

③本陣は部屋貸し、食事も台所方役人が調理。宿泊費は祝儀。赤字覚悟の名誉職。

④参勤交代で東海道を往来する大名家は１５０。供揃いはそれぞれ数十から数千名。本陣には大名と側近が泊まり、家中のものは旅籠などに分宿。大名が宿場に入ると関札が立てられ、トラブル防止のため一般旅人の宿泊を断った。

⑤明治元年、明治天皇の東京御幸のときこの本陣に宿泊、聖蹟とされた。

１０）**問屋（といや）場跡と貫目役所**　（遠望）

①問屋場、継立＝大名行列などの荷物輸送所。幕府は東海道各宿に人足１００人、馬１００匹の常備を命じた。諸大名は米、味噌、野菜、漬物はもちろん、風呂桶、遊戯用具、ペットなどを持込んだので輸送に多くの労働力を必要とした。

②貫目役所＝宿々に継立てる荷物は有料（参勤交代など公務は無料）。本駄40貫、軽尻20貫の定めを無視する者が絶えない。幕府は品川、駿府、草津の３宿に貫目役所を置いて代官所役人が取締った。

１１）**品川神社**

①神社の歴史は古く源　頼朝が創建、太田道灌などの庇護を受けた。祭神は祇園、貴布禰の両社。江戸時代は旧歩行新宿、北品川宿の鎮守として繁栄したが、第１京浜の開設で境内の一部が削られた。北の山王祭とよばれる祇園社の祭礼は盛大で千貫神輿が急な階段を降りる姿は勇壮である。

②上り龍、下り龍大明神鳥居＝江戸末期の作だが、奉納者が維新の混乱で没落したので大正14年、北品川の料理屋主人が奉納し直した。

③明神鳥居、水盤＝慶安元年（1648）家光から東海寺造営工事を命ぜられた佐倉城主堀田正盛寄進。石鳥居は都内で寛永寺に次いで古い。

④家光寄進神輿＝金銅板仕上げ、屋根四方につけられた徳川三葉葵紋が格式を感じさせる。

１２）**高源院跡板垣退助の墓**

①板垣退助＝土佐藩士。幕末の尊皇攘夷志士。明治維新の戦いで官軍参謀として活躍。維新後、民選議院の設立運動に専念、自由党を創設した。明治14年各地遊説の途中岐阜で凶漢に襲われるが一命は助かり大正８年に病死した。

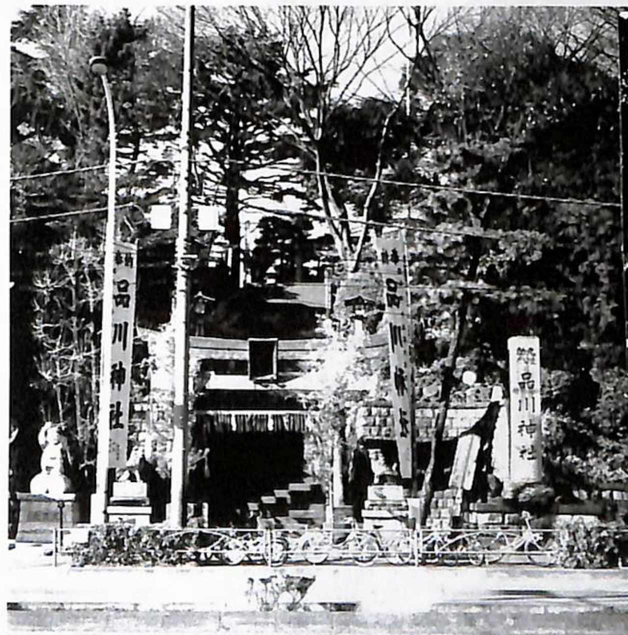
②板垣は東海寺塔頭高源院に葬られたが寺は世田谷区烏山に移転、墓地だけが残った。
「板垣死すとも自由は死せず」の碑。本当は「板垣死なず自由も死せず」？
「邦光院殿賢徳道円大居士。従一位一等伯爵板垣退助之墓。大正８－７－16。83才」
「慈徳院殿温良全貞大姉。室絹子。大正14年」（ほかに４男、５男など）

１３）**権現山公園**

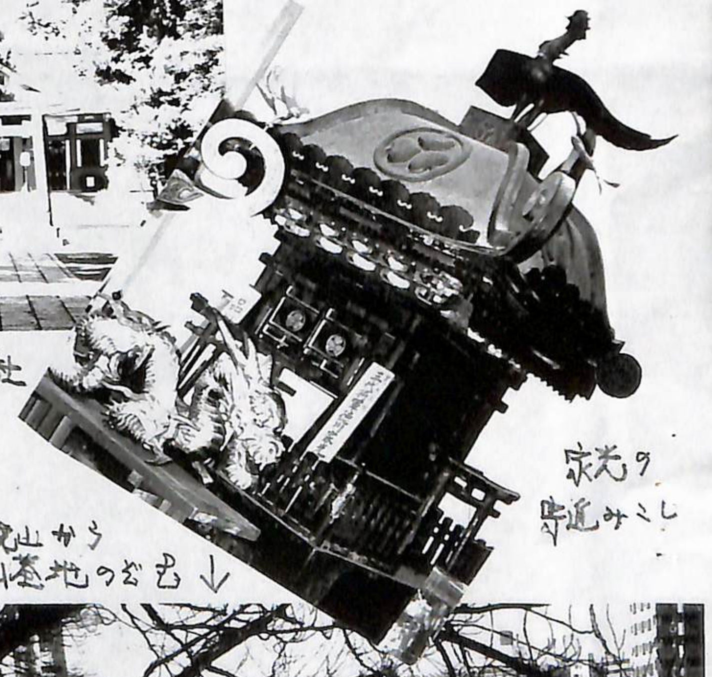
①江戸時代の御殿山の一部と東海寺庭園の一部にあたる。本坊は城南中学校、品川小学校にあった。

②裏側を東海道新幹線、山手線、京浜東北線が走抜ける。　鉄道省初代

③東海寺大山墓地を遠望＝沢庵和尚、加茂真淵、井上　勝らの墓がある。



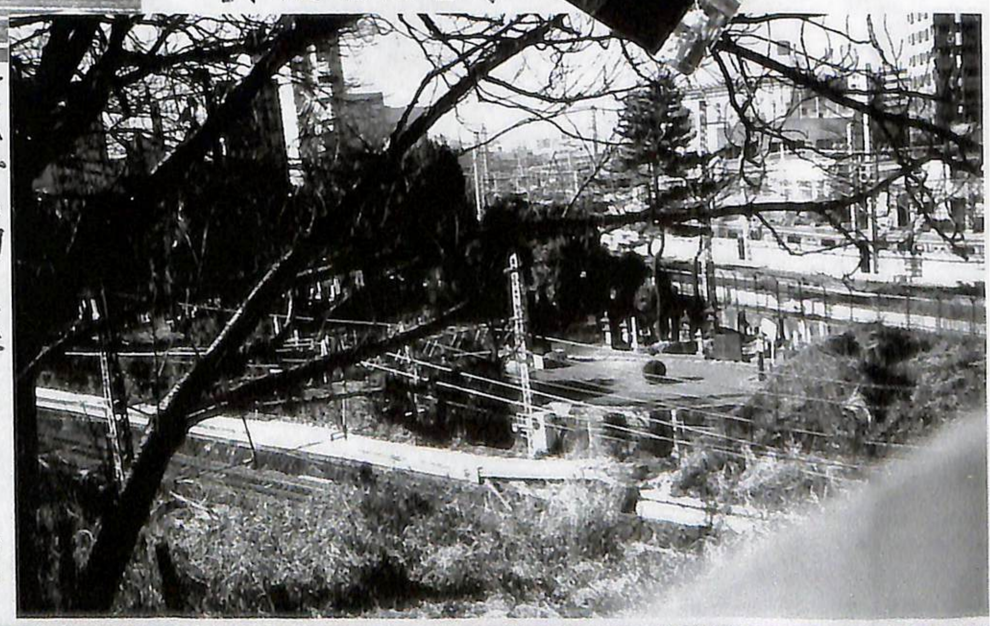
品川神社
←↑



家光の寄進みこし

権現山から
大山墓地のぞむ↓

←板垣退助の墓



１４）**沢庵和尚と東海寺**
①沢庵和尚＝江戸時代はじめ浄土宗の高僧。京都大徳寺の第１座になり、天皇から紫衣を許されたが幕府の「寺院諸法度」に違反するものとして一時出羽上の山に流された。寛永12年親友柳生宗矩の仲介で家光に謁見、信任をえて江戸に招かれた。
②東海寺＝寛永14年、３代将軍家光の命で沢庵和尚のために立てられた宿館「沢庵屋敷」を移行した。寺領５００石、境内５万坪。寛永寺、増上寺とならぶ巨刹。明治維新後寺域は官有地となり火災にもあって旧観を失った。旧本坊は城南中学校地、旧塔頭玄性院が本坊を継承した。
③仏殿＝昭和５年の建築だが本格的禅宗建築。本尊は木造釈迦如来を祀る。
鐘楼＝梵鐘は元禄５年椎名伊予守、銘文は当時の東海寺住職撰文。品川区指定文化財。
④佐倉堀田11万石堀田正盛の墓＝家光の寵臣。首席老中。宮川堀田藩祖。

１５）**子供の森公園**　（昼食）

１６）**目黒川**
①玉川用水から分かれた烏山用水と北沢用水が世田谷地区の村々を流れて品川の海に注いだ。
②川を挟んで江戸側が北品川、川崎側が南品川。改修工事で蛇行をなくしたので一部は入代わった。
③要津橋＝東海寺敷地内の橋。川は江戸時代要衝。用心するようにと橋名とされた。

１７）**清光院と中津奥平10万石墓所**
①旧東海寺塔頭で明治維新後独立。明治時代と昭和戦災で焼失。本堂は戦後の建物。
②２００坪の墓域を石門、瓦塀で囲む。初代家昌夫妻墓は３ｍを超えるみごとな五輪塔。都内でも数少ない現存大名墓所で10万石譜代大名の墓地様式をよくとどめている。品川区指定文化財。

１８）**海蔵寺首塚**
①非人溜跡。鈴が森での処刑された引取り手のない人たちを非人頭の松右衛門が埋葬して供養した。お参りすると頭痛が直るという。
②投込み寺＝品川宿の遊女たちもここに埋葬されている。境内に遊女たちの供養塔、無縁塔もある。

１９）**妙蓮寺丸橋忠弥の首塚と仙台薄雲太夫の墓**
①丸橋忠弥の首塚＝慶安４年（1651）、浪人の救済に無策な幕府を批判して幕府転覆を図ったとされる由比正雪のナンバー２。捕らえられて刑場の露と消えた。
②薄雲太夫（高尾）の墓＝伊達政宗の孫で仙台伊達62万石３代藩主綱宗が落籍した吉原名妓の墓。高尾の落籍が有名な伊達騒動の発端とされる。

２０）**願行寺しばられ地蔵**
地蔵の身体をしばると苦しみを肩代わりしてくれるという地蔵。密かに首を持帰り願いが叶うと２つにして返した。首の数だけ霊剣があらたか。

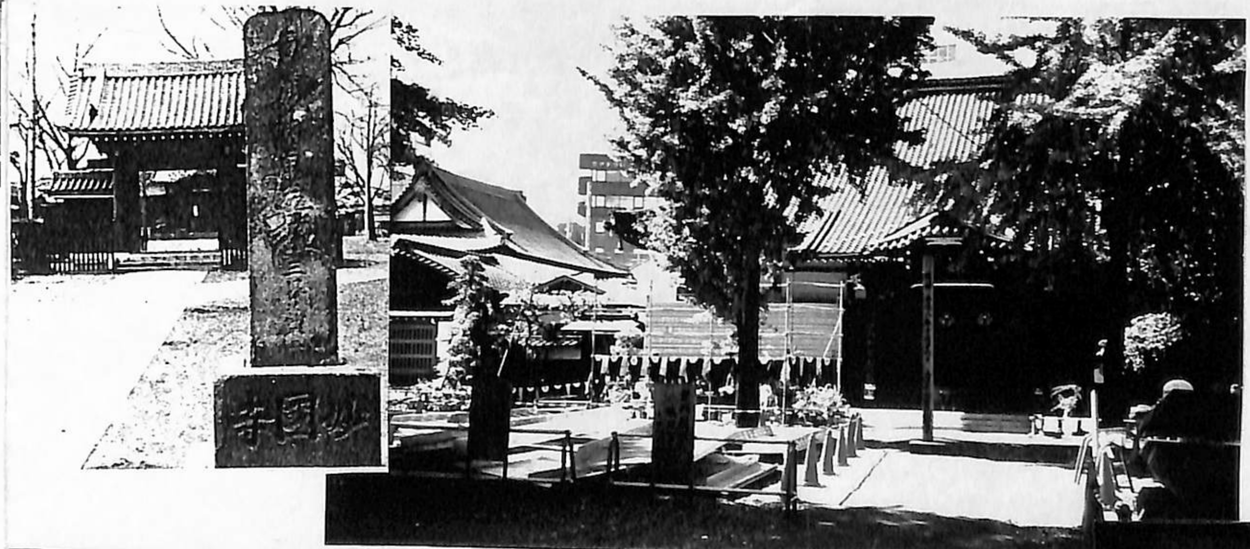
２１）**常行寺広重堂**
①常行寺＝天台宗。旧寛永寺末寺。寺伝は９世紀創建とし、古くは５００か寺の末寺を有したとも。堂宇は享保年間の建造。先代は広重収集家で多くの肉筆画、版画、旅日記などを収蔵した。
②広重堂＝広重が「東海道五十三次」の絵旅に訪れたゆかり地品川宿に木像、位牌などを祀る。

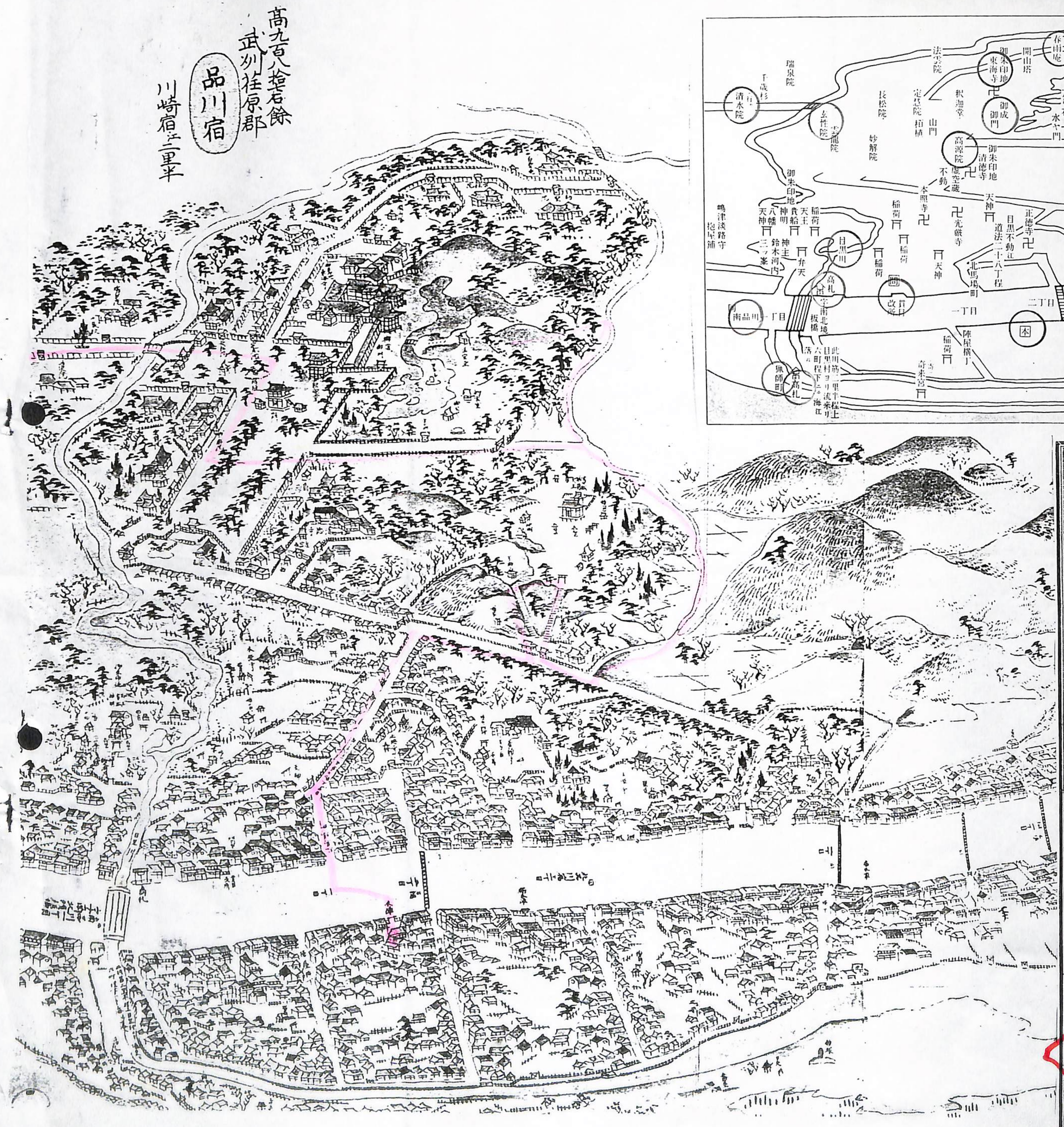
２２）**妙国寺（天妙国寺）**
①13世紀日蓮直弟子の創建。顕本法華経。天正18年徳川家康が江戸入りにあたり宿泊。慶長17年家康が駿府から江戸に入るとき秀忠がここで出迎えた。家光もしばしば立寄り、御成り36回を数えたという。寛永11年家光は五重塔、書院、仁王門、総門を寄進したが現存しない。
②本堂は寄棟造り本瓦葺き、元禄の建造。堂々たる建物は徳川家ゆかり寺としての貫禄を示している。
③墓地には「お富さん」で知られる切られ与三とお富、浪曲家梅中軒雲右衛門、お祭佐七の墓がある。

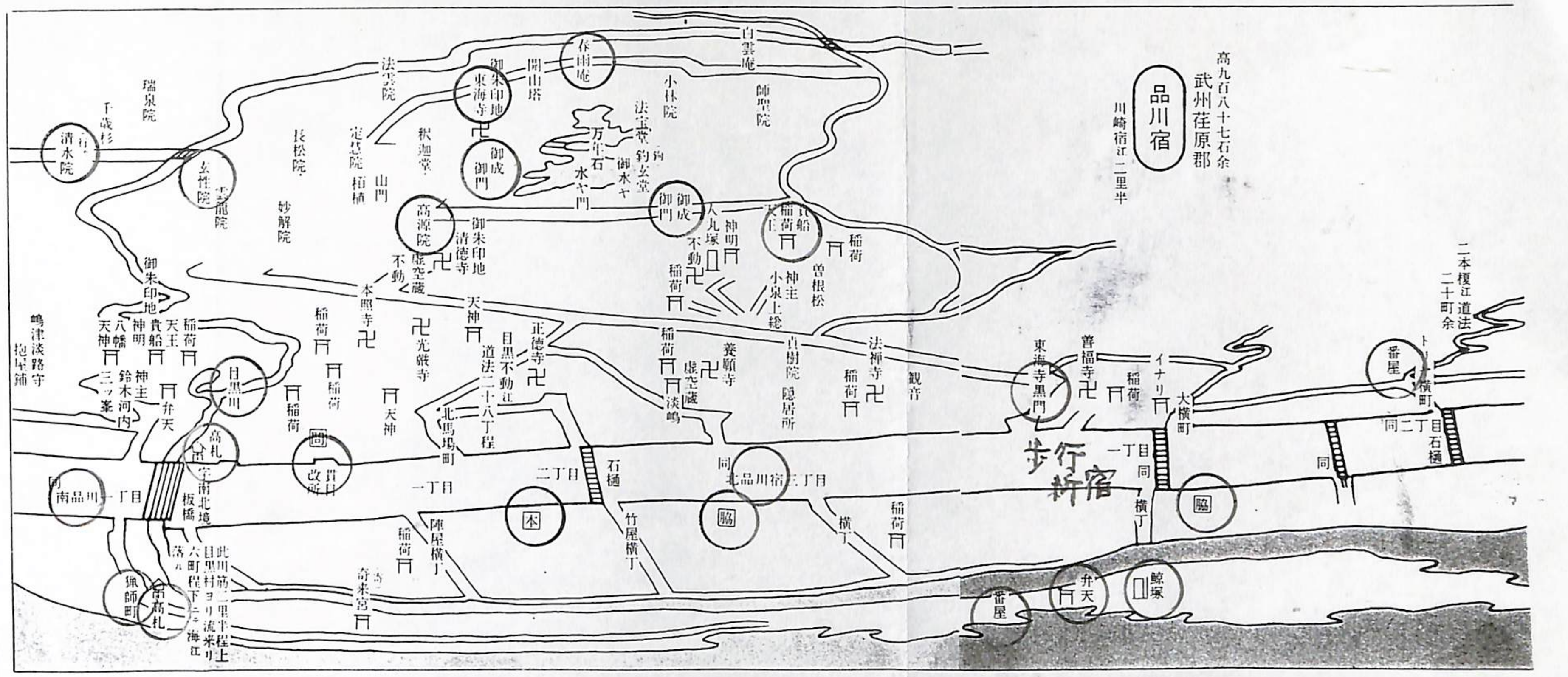
２３）**品川（ほんせん）寺と六地蔵**
①江戸六地蔵第１番＝宝永５年建造、露座銅製地蔵尊座像。２番は東禅寺、３番太宗寺、４番真性寺、５番霊巌寺、６番永代寺（改鋳、浄明院）
②品川寺＝真言宗醍醐派別格本山。９世紀はじめの創建で江戸時代初期再興という。本尊は水月観音で弘法大師が地元の土豪、品河氏に与えたものだという。一風変わった本堂もみどころ。
③鐘楼＝明暦３年鋳造、国の重要美術品。慶応３年パリ万博に出展、返還途中で行方不明となったが昭和５年ジュネーブの博物館に保管されていることがわかって返還された。
④宝きょう印塔、庚申塔、鉄灯籠。大いちょう＝高さ25ｍ、樹齢６００年。品川区指定文化財

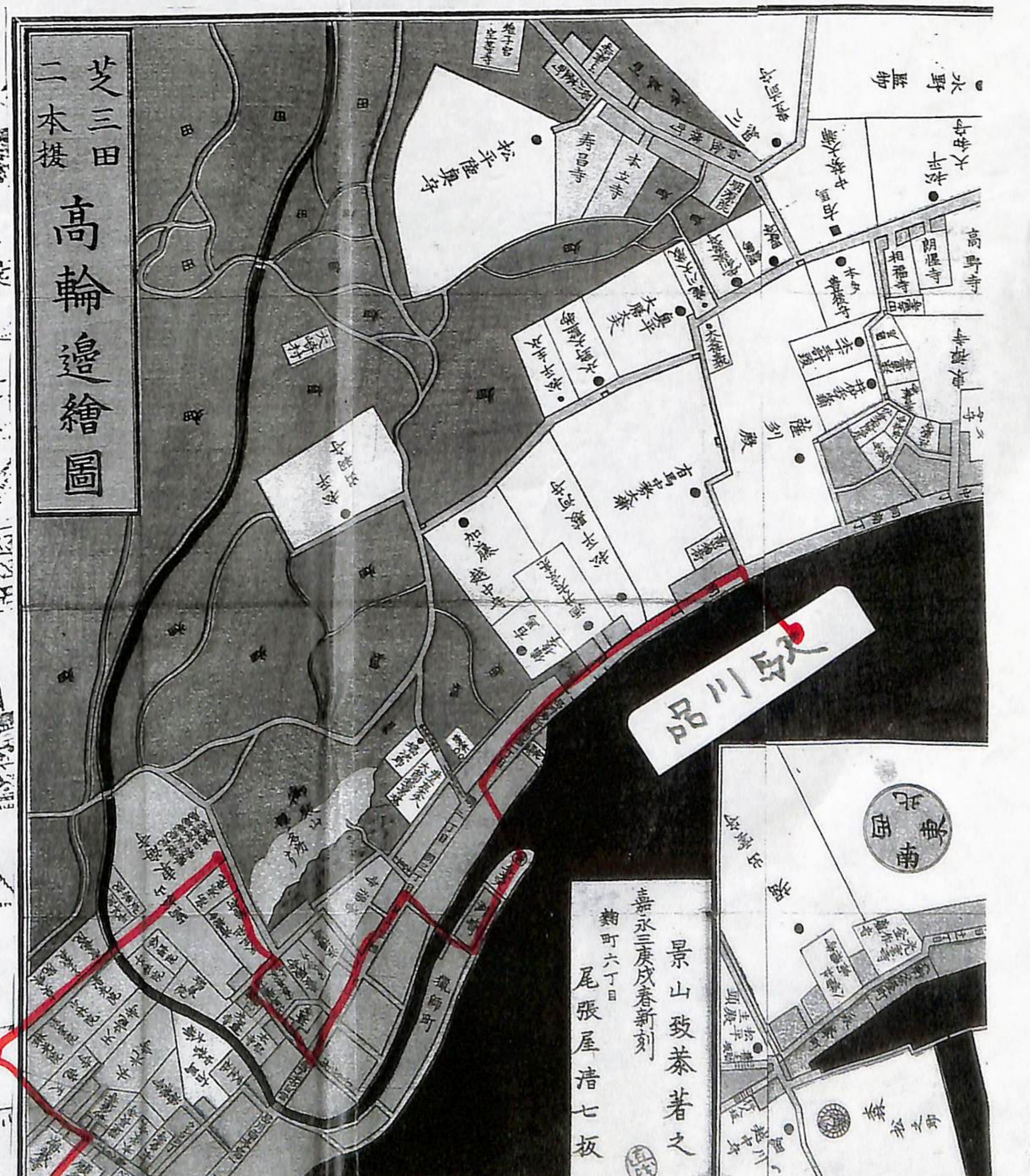
２４）**海雲寺（品川の荒神さま）**
①13世紀創建、慶長以降の元海晏寺塔頭
②千躰荒神＝火と水、台所の神様。毎年春秋の２回の大祭は大勢の信徒で境内が賑わう。

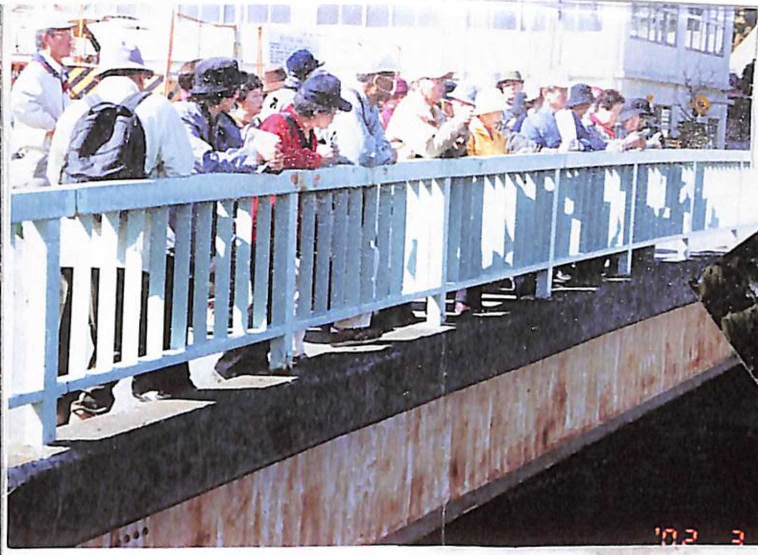
以上




高九百八拾石餘
武州荏原郡
品川宿
川崎宿ヘ二里半


高九百八十七石余
武州荏原郡
品川宿
川崎宿ヘ二里半
歩行新宿


芝三田
二本榎
高輪邊繪圖
品川駅
景山致恭著之
嘉永三庚戌春新刻
麹町六丁目
尾張屋清七板



品川台場跡

↑目黒川と要津橋　↓品川宿

↑八ツ山橋　↓台場小学校

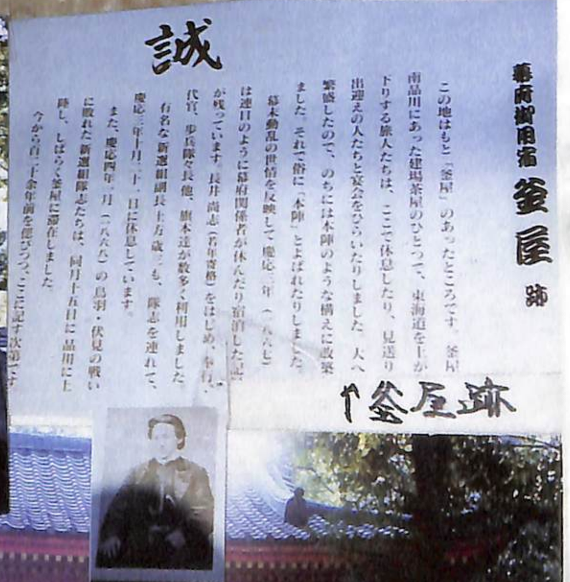
東海寺での記念写真

城と史蹟を歩く会第１０回「品川宿を歩く」

３月１０日（日曜日）
主要ご案内コース
品川駅、御殿山、東海道品川宿、御殿山下砲台跡、本陣跡、品川神社、板垣退助の墓、イギリス公使館跡、権現山公園、東海寺、清光院と奥平家墓所、丸橋忠弥首塚、しばられ地蔵、広重堂、妙国寺、釜屋と新選組、品川寺、青物横丁駅
参加者＝３９名（敬称省略しました）
竹内　克、大谷安弘、大谷順子、武見敏次、高沢　毅、小出惣治、今井典夫、永山寛一、永山靖子、大岩勝男、鈴木満、鈴木照子、加藤幸子、鈴木洋子、田中秋乃、高城正雄、高城富子、藪本テイ子、白土さだ子、西村澄子、吉水正子、板垣てる、中嶋和枝、渋木奎吾、渋木恵美子、斉藤貞子、小倉すみ、荻田恵子、熱田百代、池田美志子、猪野春枝、近久芳彦、佐倉光子、桑原絹枝、竹上　茂
山岸弘明＝案内、国分三男＝写真、高沢恒子、鷲津寛子

城と史蹟を歩く会　電話0436－42－2237
〒 290－0069市原市八幡北町２－12－12　山岸弘明

品川神社 ↓

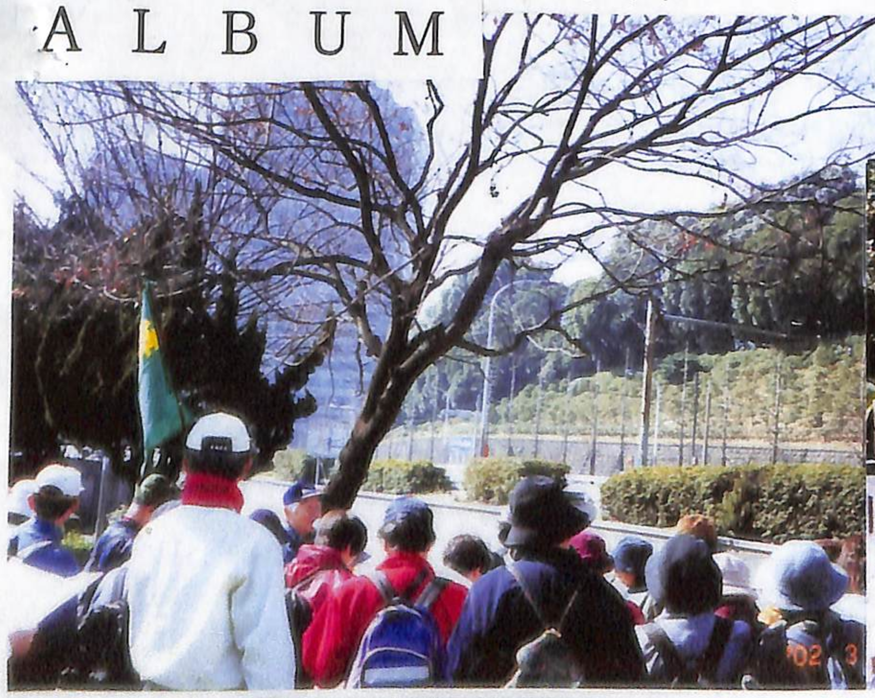
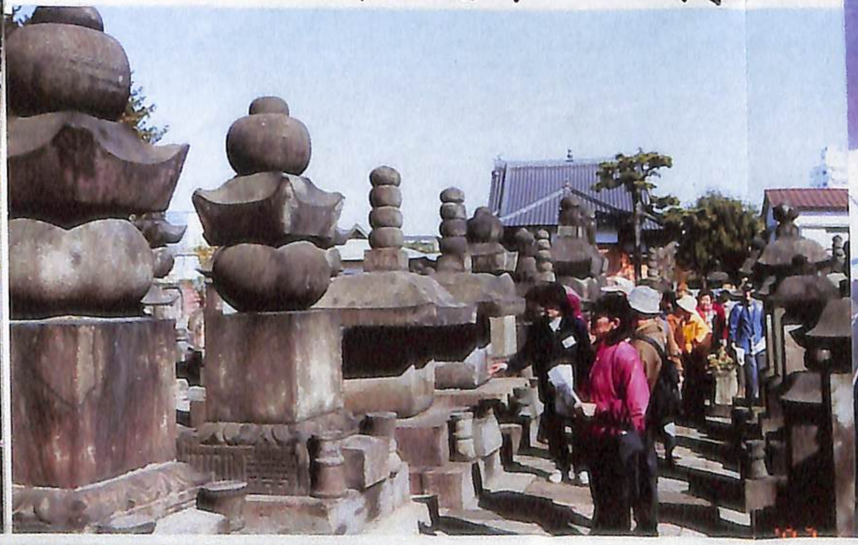


↑釜屋跡

↓御殿山

ALBUM

↓堀田正盛の墓

↑利田神社　↓奥平家墓所

品川寺 ↑→